

2019 年度事業報告

自 2019 年 4 月 1 日
至 2020 年 3 月 31 日

I . 2019 年度活動総括

2019 年度は、10 月に実施された消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減、台風による臨時休業や暖冬による冬物商品の不振等、小売販売額に大きな影響を及ぼすことが重なったが、「景気は緩やかに回復している」状態が続いた。しかし、2020 年に入ると年度末にかけて新型コロナウイルス感染症が、徐々に拡大しこれに伴う影響による外出自粛や事業活動の停滞などが次第に顕著になって、国民生活や経済の先行きに深刻な懸念が生じ始めた。

このような中、SC 業界では、2018 年(暦年)を上回る 46SC が新たに開業したが、SC 総数は 3,209 となりやや減少した。新たに開業した SC の平均店舗面積は 15,839 m²と前年に比べて縮小、テナント数の業種別構成比では飲食・サービス比率は引き続き 40%を超えた。2019 年(暦年)の既存 SC 売上高対前年比は+0.4%で僅かに前年を上回った。衣料品全般が秋冬物を中心に不振だったものの飲食やサービス関連業種が好調で底堅さがみられた。

また、当協会は人材育成、情報提供、ビジネス交流等の基幹事業において、会員交流と参加機会をさらに拡大し、その実施にあたっては新たな潮流変化や現下の課題への適切な対応に資する、タイムリーな事業企画に力点を置いてきた。

特に消費税率の引き上げが実施され、「軽減税率制度」「キャッシュレス・ポイント(消費者)還元事業」の制度により SC 業界においても多大な影響を受けるため、全国各地で説明会等を行いより会員にとって有益となる情報提供に努めた。

人材確保対策については、SCにおけるES宣言に基づき、協会 HP の特設サイトの内容を充実させ情報提供をするとともに、セミナーや月刊 SC JAPAN TODAY などにおいて諸情報の提供に努めた。

人材育成面では、Web セミナーを拡充し、地方会員へのサービス向上、受講スタイルの多様化に応えた。

会員向けに月刊 SC JAPAN TODAY のデジタル版を発行して情報発信を行い、利便性の向上に努めた。

また、関東・甲信越支部では初の試みとして、会員企業協賛により研修会を開催、協賛金を原資に懇親会費の一部に充て、会員間の交流促進を図った。これらの取組み等を通じて、会員満足度の一層の向上を目指し、2019 年度末の会員数は 963 社となった。

Ⅱ．総会、理事会、企画会議

1. 総会

【2019 年度】 第 47 回定期総会(2019 年 5 月 21 日)

2. 理事会

【2019 年度】 第 1 回理事会(2019 年 4 月 24 日)
第 2 回理事会(2019 年 5 月 21 日)
第 3 回理事会(2019 年 10 月 29 日)

3. 企画会議

【2019 年度】 第 1 回企画会議(2019 年 10 月 16 日)
第 2 回企画会議(2020 年 3 月 25 日)

Ⅲ. 支部活動報告

支部名	活動報告
北海道支部	(1) 運営委員会 ・第1回(9月19日・榊4丁目プラザ 役員室) (2) 北海道万引防止ウィーブネットワーク定期総会(6月) (3) 消費税率引き上げに伴う「キャッシュレス・消費者還元事業」説明会 講師:経済産業省 商務・サービスグループ キャッシュレス推進室 係長 半澤 彩 氏 (4) SC接客ロールプレイングコンテスト北海道大会(10月25日) サンピアザ劇場 出場者41名(前年出場者34名) (5) 支部総会(3月6日・ホテルオークラ札幌)※中止 (第1部)セミナー (第2部)総会 (第3部)懇親会
東北支部	(1) 運営委員会 ①第1回(7月3日・ホテルメトロポリタン仙台) ②第2回(10月7日・エスパル仙台会議室) ③第3回(2020年3月16日・エスパル仙台会議室) (2) 秋の研修会『SCインバウンド対策セミナー』・懇親会 国際委員会ならびに(一社)ジャパンショッピングツーリズム協会との共催 <開催日・場所> 10月7日・ホテルメトロポリタン仙台> <テーマ> 『観光から学ぶSCのインバウンド戦略』 <参加者数> 77名 <プログラム> ※講師役職は研修会開催時のもの 第1部<講演会> 「東北におけるインバウンドの現状と課題」 講師: 日本政府観光局 地域連携部長 渡辺 厚 氏 第2部<パネルディスカッション> 「観光から学ぶSCのインバウンド戦略」 コーディネーター: (一社)日本ショッピングセンター協会 国際委員会委員長 住商アーバン開発(株) 代表取締役社長 高野 稔彦 氏 パネリスト: (一社)ジャパンショッピングツーリズム協会 代表理事 新津 研一 氏 地球の歩き方総合研究所 事務局長 弓削 貴久 氏 (株)インアウトバウンド仙台・松島 代表取締役 (一社)東北インアウトバウンド連合 理事長 西谷 雷佐 氏 (3) SC接客ロールプレイングコンテスト東北大会(10月30日～31日・ホテルメトロポリタン仙台) 出場者61名(前年63名) (4) 支部総会(2020年3月16日・エスパル仙台会議室) 参加者14名 ※講演会・懇親会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止

関東・甲信越 支部	(1)運営委員会 ①第1回(7月9日・協会会議室) ②第2回(11月25日・協会会議室) (2)SC接客ロールプレイングコンテスト関東・甲信越大会 ①関東・甲信越大会(9月3～6、9、10日) IMAホール 出場者 320名(前年出場者 308名) ②東京大会(10月7～11日) ムーブホール 出場者 201名(前年出場者 195名) (3)支部主催研修会 ①第1回研修会(7月9日・SC協会会議室) 1)企画趣旨:トレンド情報、話題の商業施設 2)テーマ・講師: 『「ムーミンバレーパーク」の仕掛け人に聞く、感動を創る次世代テーマパークとは』 講師:西山 祐介 氏(株ムーミン物語 取締役兼マーケティング本部長) 《会員プレゼンテーション》 『3世代でお出かけしたくなる施設への新提案』 講師:日暮 正美 氏(コンビニエンス(株) BCS事業本部BCS営業部首都圏営業所所長) 『エンカル時代にみる、街と繋がるSCの新たなコミュニケーション手法とは』 講師:清水 真樹 氏(東邦レオ(株) グリーンディベロップメント運営統括) ②第2回研修会(11月25日・SC協会会議室) 1)企画趣旨:新会員紹介+会員協賛 2)テーマ・講師: 『FOOD & TIME ISETAN YOKOHAMA と、三越伊勢丹の取り組み』 講師:山里 幹 氏(株三越伊勢丹 不動産事業部SC事業推進部部長) 『フードデリバリーの動向とUber Eatsの可能性』 講師:武藤 友木子 氏(Uber Japan(株) 執行役員 Uber Eats 日本代表) 《会員協賛プレゼンテーション》 『JR東日本グループとJFEエンジニアリンググループの協業による 食品廃棄物リサイクル発電事業』 講師:蔭山 佳秀 氏(株Jバイオフードリサイクル 代表取締役社長) ③第3回研修会(2月12日・南町田グランベリーパーク) 1)企画趣旨:若手育成+視察 2)テーマ・講師: 『南町田グランベリーパーク現地視察研修会』 講師:青木 太郎 氏(株東急モールズデベロップメント SC事業部 グランベリーパーク総支配人/SC経営士) ④第4回研修会(3月5日・協会会議室)※中止 1)企画趣旨:経営者向け講演会 2)テーマ・講師:『ポップカルチャーを活用したSC集客のはじめ方』 『アニメツーリズムの動向と、アニメを活用した集客の可能性』 講師:鈴木 則道 氏((一社)アニメツーリズム協会 専務理事) 『ポップカルチャーを活用した新たなコトビジネス ～KADOKAWAの挑戦』 講師:森 好正 氏(株KADOKAWA プロダクトマーケティング本部 レクリエーション事業局渉外部部長) (4)単館SC研究会 ①第30回単館SC研究会(7月10日) ②第31回単館SC研究会(福岡視察、11月7～8日) ③第32回単館SC研究会(1月9日) ④第33回単館SC研究会(3月30日)※中止 (5)支部総会(3月5日・協会会議室)※中止 (第1部)支部総会 (第2部)第4回研修会 (第3部)懇親会
----------------------	---

中部支部	(1) 運営委員会 ① 第1回(7月23日・コンベンションルーム AP 名古屋) ・2019年度中部支部総会および運営委員会の日程について ・SC接客ロールプレイングコンテスト中部支部大会の運営について ・研修会について ・会員候補企業ご紹介のお願いについて ② 第2回(12月19日・コンベンションルーム AP 名古屋) ・2019年度第3回運営委員会&支部総会の開催について (2) 支部主催研修会(12月19日・コンベンションルーム AP 名古屋) 参加者 27名 ・第1講『訪日旅行の最新トレンドとショッピングツーリズムの推進事例 ～2020とその後に向けて～』 講師:(一社)ジャパンショッピングツーリズム協会 事業推進部 部長 神郡 慶子 氏 ・第2講『ソーシャルビッグデータを活用したインバウンドマーケティング分析 ～特に中部エリアの特徴・傾向について～』 講師:東京海上日動火災保険(株) 営業企画部次長 兼 地方創生・健康経営室 課長 小宮 常正 氏 ・第3講『「Mobility Innovation」～ショッピングセンターとモビリティサービス共創の可能性～』 講師:MONET Technologies(株)(モネ・テクノロジーズ) 事業推進部長 上村 実 氏 ・情報交換会 (3) SC 接客ロールプレイングコンテスト中部大会(11月13～15日・ウインクあいち) 出場者 118名 (前年 117名) ・ファッション・物販部門・・・85名(前年度 89名) ・食品・飲食・サービス部門・・・33名(前年度 28名) (4) 支部総会(3月18日) ※支部総会は中止 ① 支部総会 ・2019年度中部支部収支決算予想 ・2020年度中部支部活動計画(案) ・2020年度中部支部収支予算(案) ② 研修会 延期
------	---

近畿支部	(1) 運営委員会 ・第1回(7月29日・サードプレイス弥生) ・第2回(12月9日・サードプレイス弥生) (2) SC 研究会 ・第1回(7月18日 サード・プレイス弥生/出席者 12名) ・第2回(11月21日 サード・プレイス弥生/出席者 7名) ・第3回(2月20日 サード・プレイス弥生/出席者 16名) (3) SC 研究会セミナー ・第1回(4月17日 阪急西宮ガーデンズ ガーデنزホール/参加者 97名) ■事例研究「阪急西宮ガーデンズ最新リニューアルについて」 講師:阪急阪神ビルマネジメント(株) 野村 英史 氏 ・第2回(8月9日 ホテルヴィスキオ尼崎オークルームウエスト/参加者 73名) ※SC研究会と単館 SC 交流会、SC 経営士会近畿ブロックの共催 ■講演「国際化と関西商業の役割について」
------	---

	講師:大阪観光局理事長(大阪観光局長) 溝畑 宏 氏 ・第3回交流会(11月8日 サード・プレイス弥生/参加者47名) ※SC研究会と単館 SC 交流会の共催 ■講演:「地域と共生する単館SCのこれからの使命と役割について」 講師 (株)ダイナミックマーケティング社 代表 六車 秀之氏 ・第4回(3月13日※次年度に延期) ■テーマ:関西における新たな食体験を提供する『フードホール』の取り組みについて」 (4)単館 SC 交流会 ・第1回(5月17日・サードプレイス弥生) ・第2回(8月9日・ホテルヴィスキオ尼崎/参加者73名) ※SC研究会と単館 SC 交流会、SC 経営士会近畿ブロックの共催 ・第3回((11月8日 サード・プレイス弥生) ※SC研究会と単館 SC 交流会の共催 ・第4回交流会(2月14日 大川創業(株) 本社会議室/参加者15名) ■講演「地域に根差す単館SCの役割と使命」 講師 大川創業(株) 代表取締役会長 大川 卓也氏 他 (5)SC 接客ロールプレイングコンテスト近畿支部大会(10月15日～18日) ホテル京阪京橋グランデ 出場者191名(前年出場者189名) (6)支部総会・SC フォーラム(3月19日※中止)
--	--

中国・四国 支部	(1)運営委員会 ①第1回(8月27日・中国 SC 開発(株) 会議室) ・2018年度中国・四国支部活動スケジュール ・SC接客ロールプレイングコンテスト中国・四国大会について ・研修会、中国・四国支部総会&講演会について ・会員の増強について ②第2回(11月25日・山陽 SC 開発(株) 会議室) ・2019年度第3回運営委員会&支部総会の開催について (2)視察研修会(11月25日「ランチ岡山北長瀬」「問屋町テラス」) 参加者 31名 ・概要説明、施設の説明・視察、交流会 (3)SC 接客ロールプレイングコンテスト中国・四国支部大会(11月19～20日) さん太ホール 出場者88名(前年出場者82名) ・ファッション・物販……………62名(前年度=63名) ・食品・飲食・サービス……………24名(前年度=18名) (4)支部総会(3月17日) ※中止 (5)記念講演・懇親会 延期
-------------	--

九州・沖縄 支部	(1)運営委員会 ①第1回(8月2日・JR博多シティ) (2)SC経営強化セミナー・最新 SC 研究&懇親会(12月5日・サクラマチクマモト) 『サクラマチクマモト視察研修会』 (3)SC接客ロールプレイングコンテスト九州・沖縄大会(10月2～3日・西鉄ホール) 出場者87名(前年87名)／ファッション・物販部門65名、食品・飲食・サービス部門22名 (4)支部総会(2020年2月21日・JR博多シティ) (5)SC経営強化セミナー&懇親会(2020年2月21日・JR博多シティ) 『楽天が取り組むキャッシュレスの取り組み、未来』 講師:楽天ペイメント(株) 楽天ペイ事業本部 加盟店営業第二部 RM 第2グループ マネージャー 鈴木 研一 氏
-------------	---

IV. 委員会活動総括

1. 総務・会員委員会

1. 2019 年度 活動総括

総務・会員委員会では、主に次の項目について審議をおこない、企画会議に諮った。

- (1) 会員の入退会と会員サービスについて
- (2) 会員募集について
- (3) 人材確保対策の取組み推進について
- (4) 2019 年度事業活動総括について
- (5) 2019 年度収支見込みについて

会員募集について

- ・総務・会員委員会では、会員候補リストをもとに紹介可能企業のリストアップを行っている。リストアップされ企業には委員・事務局が訪問等をして協会事業の説明をし、入会依頼をした。
- ・各支部・専門委員会にも「会員紹介のお願い」を依頼。
- ・2020 年 3 月 25 日の第 2 回企画会議後に新規入会会員と企画会議委員、総務・会員委員会委員との交流会を予定していたが、延期とした。

■ 会員の入退会状況(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

会員種別	前期末	2019 年度				
		入会	退会	種別変更	期末	増減
第一種正会員	321	5	4		322	1
第二種正会員	322	15	23	-1	313	-9
賛助会員	323	31	27	1	328	5
合計	966	51	54		963	-3

2. 委員会の一部再編について

2020 年度第 1 回理事会にて、以下の通り委員会を一部再編することとなった。

2020 年度からスタートする「2020 中期運営計画(2020～2023 年度)」(以下、「2020 中計」)の中で、テクノロジーに関する検討体制の整備^(注1)と、委員会等の組織再編^(注2)について記述している。

これを受けて、次のとおり委員会の一部再編を進めたい。

(注1)テクノロジーに関する研究と情報発信／SC 従業員の働きやすい業務改善や店舗の生産性向上など業界の持続的成長と会員のビジネスに役立つ新技術の紹介やその評価及び導入に伴う課題などについて、必要な検討体制を整えて研究に取組むとともに、アウトプットとして協会の媒体や SC ビジネスフェア等を通じて情報の提供に努める。

(注2)効果的な事業実施／事業については、会員のニーズや SC を巡る環境の変化に応じた内容や手法の改善に努めるとともに、委員会・支部・SC 経営士会間の連携や新たな事業に応じた委員会等の組織再編などにより、効果的な体制の下で運営の活性化に努める。

1. 委員会の一部再編の考え方

1 つはテクノロジーに関する委員会を新設すること。

2 つ目は既存委員会を再編成して、内外のSC動向に関する情報の把握・提供をいっそう強化するために新委員会を設置すること。

この2つを合わせた委員会の一部再編の考え方等を、以下に提示する。

2. テクノロジーに関する新規委員会の設置について

(1) 委員会名

(仮)DX(デジタルトランスフォーメーション)委員会

(2) 設置の目的

デジタル等の技術革新は著しい進展を見せており、今まさに、多くの分野でテクノロジー活用の可能性が広がっている。

昨今の購買行動の多様化や人手不足の深刻化等を背景に、SCがテクノロジーを効果的に活用していくことは、持続的成長のために重要な課題となる。

「2020 中計」の基本方針の中では、「SCの生産性や魅力の向上など店舗や施設運営の改善に資するニューテクノロジーの実装化を支援する」と掲げており、これを具体的に推し進め、会員企業の事業展開に寄与していくために、(仮)「DX(デジタルトランスフォーメーション)委員会」を立ち上げる[※DX(デジタルトランスフォーメーション)]。

(3) 事業計画の骨子

1) 研究活動について

SC 従業員の働きやすさのための業務改善や店舗の生産性向上など業界の持続的成長と、賛助会員らのビジネスにも役立つテクノロジーの紹介や、その評価及び導入に伴う課題などについて研究する。

主に次の取り組みを想定している。

① 情報収集・整理

○テクノロジー全般の情報収集及び整理を行い、研究すべきテーマ(カテゴリー)を絞り込み、また、「お客様の満足度を高める取り組み」と「SC内の仕事の生産性を向上させる」といった視点から、優先順位をつけて取り組む。

○参考まで、大きなテーマ(カテゴリー)候補として、SCビジネスフェア2020「SC Tech Forum」で掲げたものを挙げる。

デジタルマーケティング

省人化・無人化

キャッシュレス決済

インバウンド対応

○なお、大手の会員企業(DV、TN)だけでなく、単館DVや小規模TN企業が活用できるテクノロジーにも留意して、情報収集及び整理、絞り込みを行う。

② Tech 系企業及び導入企業のプレゼン・事例研究等

○情報収集した中から、いくつかの Tech 系企業のプレゼンを委員会が中心となって行う。

○それらの導入企業から説明を聞く、あるいは訪問する(活用現場への訪問)などして事例研究を行う。

③ 実証実験(可能性の打診等)

○最先端テクノロジーなどは想定される効果や課題を整理し、可能ならば委員企業等で実証実験を行う。

④ 課題整理等

○「②事例研究」や「③実証実験」を踏まえて課題等を整理し、普及あるいは実用化に向けた道筋を探る。

2) 発信活動について

研究活動の流れの中に、「発信活動」をリンクさせて、相乗効果を上げていく。例えば、タイミングを計り、事例研究結果を月刊誌等で紹介したり、1月のSCビジネスフェアでの発信を行う。

【発信活動のイメージ】

研究活動	発信活動(イメージ)
①情報収集・整理	○会員の Tech 企業などへの情報提供の依頼。
②Tech 企業のプレゼン・事例研究等	○Tech 企業の公開プレゼン ○同ピッチコンテスト ○事例研究結果を月刊誌等で発信 ○SCビジネスフェアへの出展、セミナー依頼
③実証実験(可能性の打診等)	○実証実験先の募集(協力依頼等)

【※DX(デジタルトランスフォーメーション)とは】

経済産業省が 2018 年 12 月にまとめた「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン(DX 推進ガイドライン)」の中での DX の定義は次の通り。「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」。

3. 既存委員会の再編成による新委員会設置について

(1) 考え方

昨今のボーダレスな事業環境に鑑み、内外を問わずわが国の SC 運営に参考となる情報や動向を、広く臨機に把握・提供することが重要となっているが、下表のとおり、これらに関する業務は現在、「調査研究委員会」と「国際委員会」が各々行っている。

「調査研究委員会」の「①国内外 SC 及び流通全般にわたる調査及び実情把握、提供」「②経営支援情報等、当面の課題に対する調査研究」の業務と、

「国際委員会」の「②国際的な SC データの整備」「③各国の SC 関連団体との交流」の業務は相互に類似し重複している。

これらの業務は内外のSC動向等に関する調査、情報収集、提供といった点で共通性があることから、「調査研究委員会」と「国際委員会」を発展的に解消し、上記業務を一元的に行う委員会を新たに設置することとしたい。

国際委員会	調査研究委員会
①グローバル化（インバウンド、アウトバウンド）への対応	①国内外SC及び流通全般にわたる調査及び実情把握、提供
②国際的なSCデータの整備	②経営支援情報等、当面の課題に対する調査研究
③各国のSC関連団体との交流	

 = 両委員会の重複業務

なお、その際、「国際委員会」が行ってきた「①グローバル化」に関する業務は、親和性の強い公共政策・環境委員会に移管することとしたい。

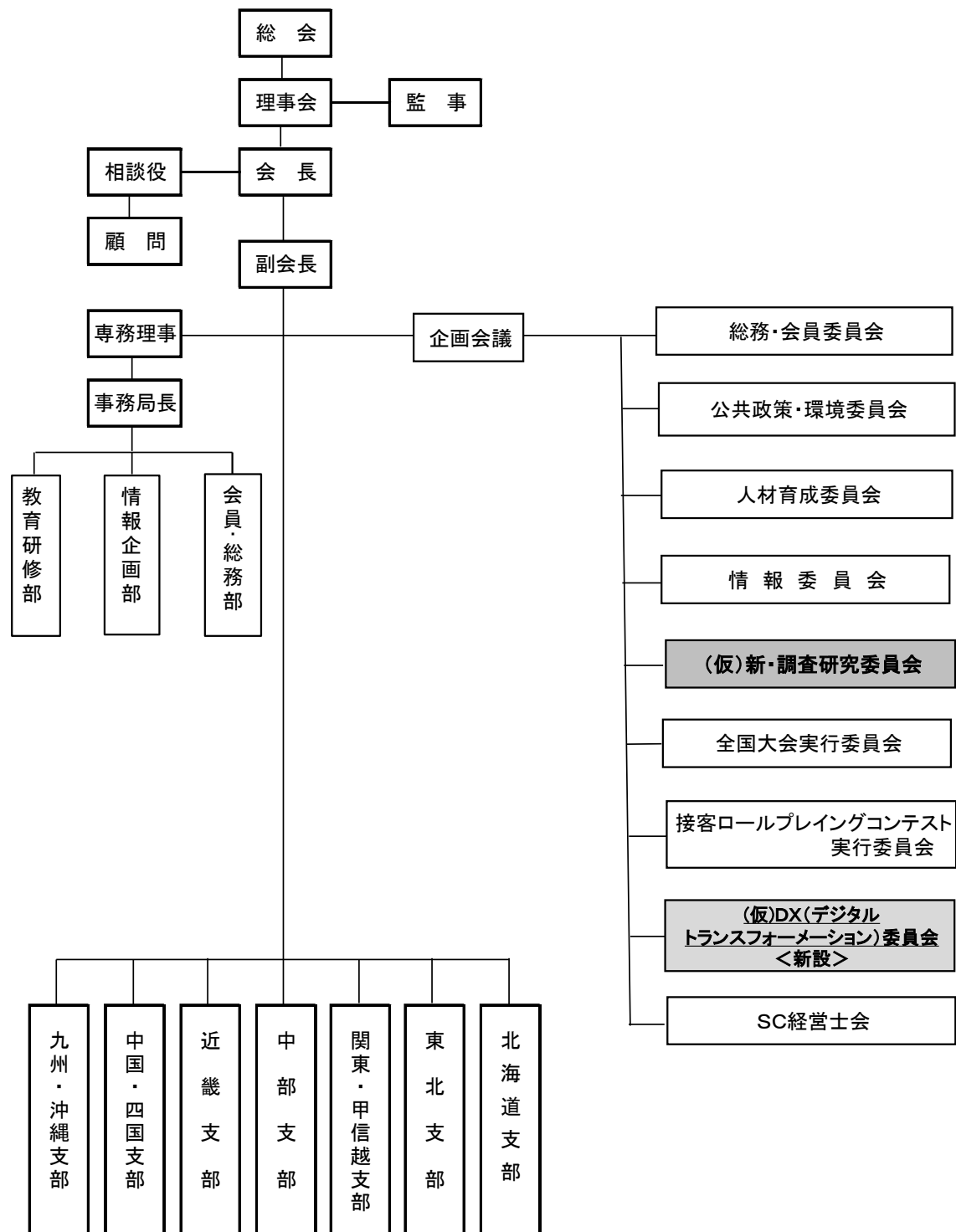
(2) 新委員会の名称

(仮称)「新・調査研究委員会」

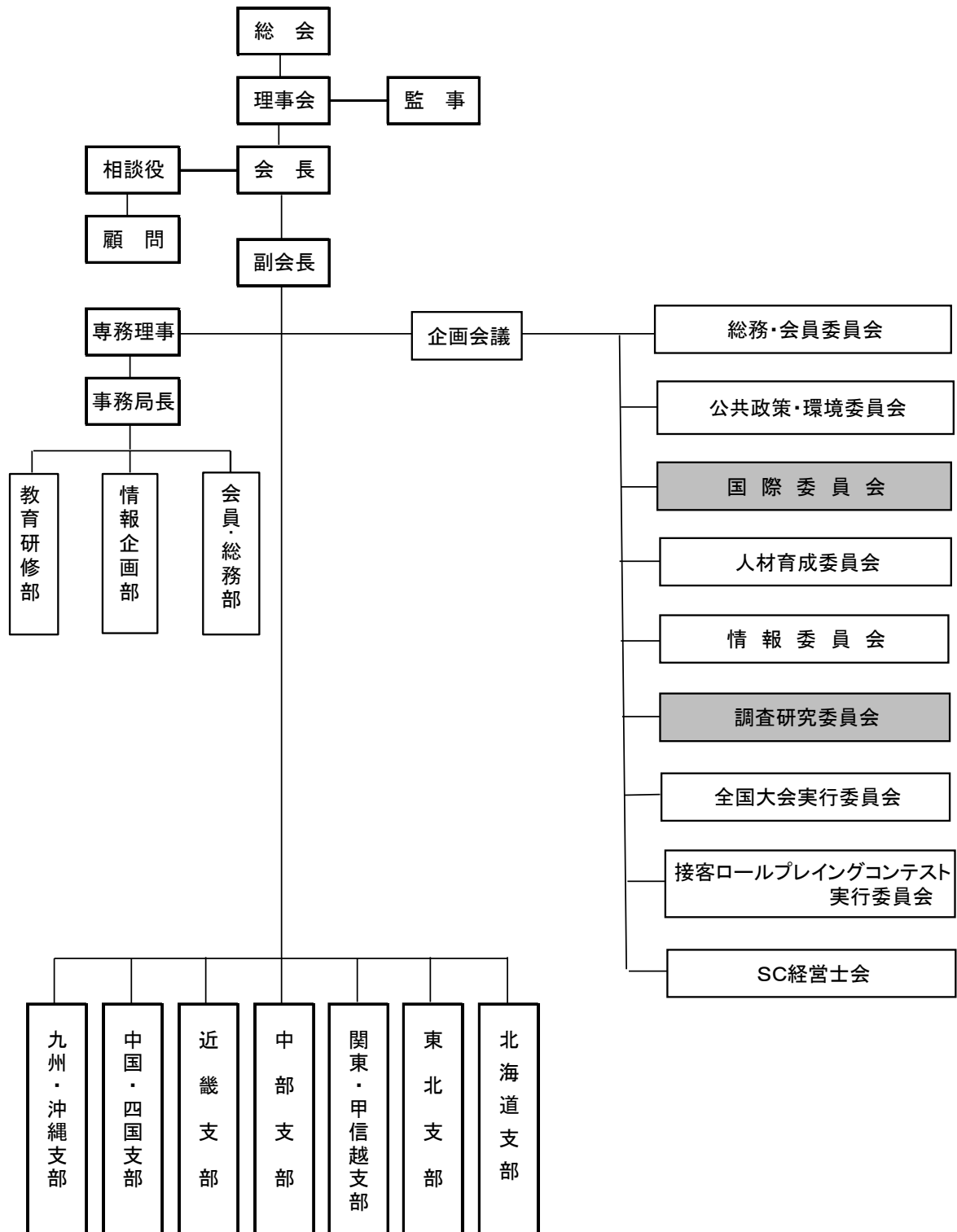
(3) 「新・調査研究委員会」の事業計画について

(仮称)「新・調査研究委員会」は、「調査研究委員会」と「国際委員会」の2020年度事業計画を引き継ぎ、事業を推し進めていく。

<（一社）日本ショッピングセンター協会 組織図（新）>



<(一社)日本ショッピングセンター協会 組織図(旧)>



【 人材確保対策特別委員会 】

1. 2019年度 活動総括

(1)SC 接客ロールプレイングコンテストの大賞受賞者(高見 幸男さん)の事例発信

①動画作成・公開

「SC 接客ロールプレイングコンテスト大賞 高見 幸男氏が語る販売職の魅力とは」

～店はお客様と楽しさや喜びを共有する場所～

・5月21日 定期総会会場(ホワイエ)にて公開

・6月28日 ES 特設ページで公開スタート

②高見氏による定期総会スピーチ

高見氏に定期総会にお越しいただき、懇親会の場で販売への想いをスピーチ

③月刊誌に大賞受賞者インタビュー掲載(6月号)

④SC接客ロールプレイングコンテスト支部大会での動画放映

9月3日(火)～9月10日(火)開催の接客ロールプレイングコンテスト関東甲信越支部大会で動画放映

⑤SC 接客ロールプレイングコンテスト全国大会で動画放映

1月24日(金) パシフィコ横浜

(2)月刊誌

①ES・人材確保に関する特集号発刊

・SC JAPAN TODAY 6月号 「外国人材と働く ～採用そして共生～」

特別インタビュー「外国人材が活躍・共生する社会に向けて～SCは何をすべきか～」

梅澤高明氏・・・外国人雇用協議会副会長／A・T・カーニー(株)日本法人会長

原 英史氏・・・外国人雇用協議会理事／(株)政策工房 代表取締役社長

※上記、特別インタビューほか、外国人材の採用と共生に関する記事を多数掲載

②ES宣言の告知(1面広告)

4月号、5月号(カラー)、11月号など

③SC接客の極意掲載

6月号、7・8月号、9月号

④ESコラム[新シリーズ]

10月号 日本SC大賞ES賞受賞SCに聞く「JRタワー」前編

12月号 日本SC大賞ES賞受賞SCに聞く「JRタワー」後編

(3)「生産性の向上」の情報発信

・ICT 技術を活用したショップスタッフ支援事例について

【7月1日 第1回人材確保対策特別委員会内】

(株)パルコデジタルマーケティング

経営企画・広報 担当課長 鈴木 雅司 氏

・SC・流通小売業の最新動向について

【12月2日 第2回人材確保対策特別委員会内】

東芝テック(株) リテール・ソリューション事業本部 商品・マーケティング統括部 専門店ソリューション商品部

SC ソリューション担当 部長 山口 満 氏

(4)ES 特設サイトの充実

①高見氏の動画掲載

②SC ビジネスフェア パネルディスカッション掲載

「SC を安全で楽しく、誇りが持てる職場とするには？～テナントからディベロッパーへの提案～」

③月刊誌 特別インタビュー掲載

「外国人材が活躍・共生する社会に向けて～SC は何をすべきか～」

④人材確保に関する定量調査掲載

人材確保に関する定量調査 2018 ～厳しい人手不足が続く。ES の取り組みは進展～

(5)会員各社への取り組み協力要請

会員各社に ES 特設ページへの協力要請(総会、理事会等)

(6)他の委員会・支部の取り組み

①ES 賞の発表

・ES賞 JRタワー(アピオ・エスタ・パセオ・札幌ステラプレイス)
新静岡セノバ

②人手不足問題対策セミナー開催

・第1回 ～ES の重要性を学ぶ！～人手不足問題対策セミナー 7 月 25 日

・第2回 ～ES、採用、定着率、外国人労働力～人手不足問題対策セミナー 3 月 6 日(金)【中止】※
※新型コロナウイルス感染拡大に伴い 3 月開催のセミナーはすべて中止となった

③SCの人材確保に関する定量調査

・「人材確保に関する定量調査 2018」を月刊誌 5 月号掲載、HP 掲載

・「人材確保に関する定量調査 2019」を実施。12/24 の定例記者懇談会で調査結果を発表

・「人材確保に関する定例調査 2019」を月刊誌 3 月号掲載、HP 掲載

④第 44 回日本ショッピングセンター全国大会

・人材確保に関するセミナー

「ベストな ES をめざした SC の取り組みについて」

～ES 大賞ディベロッパー2 社とテナント企業が考える ES の最適解～

コーディネーター 住商アーバン開発(株) 特別顧問 高野 稔彦氏

パネリスト 札幌駅総合開発(株) 代表取締役社長 平川敏彦氏

静鉄プロパティマネジメント(株) 代表取締役社長 川井敏行氏

(株)ナノ・ユニバース 代表取締役社長 濱田博人氏

・主催者ブースで ES 宣言・ES シンボルマーク設置

・横浜fカレッジ(ファッション専門学校)にファッション業界セミナー・テナント企業説明開催

・SC 業界研究イベントで織研新聞による SC 業界・ファッション業界説明

2. 公共政策・環境委員会

1. 2019年度 活動総括

2019 年度においても委員会の基礎的活動として、外部委員会への参加を始めとする官公庁等との連携による情報収集、その中で適宜調整や要望等を行うと共に、会員へのタイムリーかつ有益な情報提供に努めた。

特に今年度は10月に消費税率の引き上げが実施され、併せて「軽減税率制度」「キャッシュレス・ポイント(消費者)還元事業」がスタート。SC 業界においても多大な影響を受ける中で委員会の重点施策として取り組み、全国各地での説明会の他、SC 業界に特化した資料(財務省作成)、SC 協会が独自で整理した Q&A 資料、事前・事後でのアンケート調査等、より会員にとって有益となる情報への加工を含めた取り組みができたと考えている。

その他にも改正入管法・レジ袋有料化義務化・改正健康増進法・テロ対策・東京都条例等、10 回以上の説明会を開催し、法律改正や時事問題等に合わせ会員ニーズに応えるべく取り組んだ。

一方、今年度も台風や豪雨による各種災害が頻発し改めて SC における災害対策の重要性が高まる中、税制等改正要望の更なる具体化に向け、会員からの情報収集や他団体との協同による取り組みに着手した。また新型コロナウイルス感染症(COVID-19)については政府方針等を会員へ情報提供した他、事例収集と官公庁への情報提供に努めた。

その他に継続して、環境(省エネ)問題の一環として低炭素社会実行計画フォローアップ調査やクールシェア・ウォームシェアの取り組みを行った。また震災復興支援の一環として、宮城県石巻市の(一社)鮎川まちづくり協会に対し、研修用として SC テナントスタッフハンドブックを15冊寄贈している。

2. 事業報告

(1) 税制等改正要望(2020年度)

合計8項目に関する要望を行った。その中で挙げた「防災施設など公共性の高い社会的インフラ機能としての役割を担う商業施設について、土地や当該施設部分に対する税制上の優遇措置の創設」については、次年度以降に向けてより具体化するべく取り組む事となった。

(2) 法律・制度等に関する説明会

- ・キャッシュレス・消費者還元事業
- ・東京都キャップ&トレード制度
- ・改正入管法(特定技能)、特定活動
- ・ソフトターゲットにおけるテロ対策
- ・改正健康増進法
- ・プラスチック製買物袋有料化制度
- (・改正食品衛生法は開催中止、今後延期を検討)

(3) SCの災害対策に関する取り組み

今後の税制等改正要望に向け、会員からの情報収集を行った他、他団体との協同での取り組みに着手している。

(4) 環境(省エネ)問題に関する取り組み

- ・低炭素社会実行計画フォローアップ調査
- ・クールシェア、ウォームシェアへの協力

(5) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する対応

日々の政府方針等について適宜会員へ情報発信した他、SCでの対策状況(予防措置や営業方法・就業体制変更等)に関する事例収集を行い、官公庁への情報提供も行った。

(6) 地域貢献ガイドラインの一部改訂

地域社会におけるSCの社会的役割の重要性が益々高まっている中、SCが担っている様々な社会的取り組みを発信し広くステークホルダーの理解を増進、また関係団体や行政との連携も得てSC業界の認知度を高める事が重要となってきている。その方法の1つとして、SCの重要な役割である「まちづくり」において、顕著な功績を挙げたSCに対し国土交通省から顕彰してもらい、社会的認知度の向上に寄与する事を検討している。

その際の選考基準として、同省は協会の定める「地域貢献ガイドライン」を参考にする事としているが、SCの「まちづくり」での役割をより踏み込んで表現して欲しいとの要望があり、ガイドラインの一部改訂を行った。

3. 国際委員会

1. 2019 年度 活動総括

2019 年(暦年)はインバウンド客数が前年比 2.2%増の 3,188 万 2 千人となり、JNTO が統計を取り始めて以降最多となった。ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の開催なども貢献し、韓国を除く 19 の国・地域で過去最高を記録した。旅行消費額(速報)は前年比 6.5%増の 4 兆 8,113 億円となり、7 年連続で過去最高を更新した。

こうしたなか、2019 年度は、東京オリンピック・パラリンピック、さらに 2025 年度開催予定の大阪万博やIR誘致などに向けて、SCがインバウンド対応をよりいっそう進めることができるよう、セミナーや協会ホームページを通じて「インバウンド」に関する情報発信を進めた。また、国際会議への出席など、国際交流も継続して行った。

2. 事業報告

(1) インバウンドに関わる情報提供

① 「SCインバウンド対策セミナー」開催

当協会東北支部、(一社)ジャパンショッピングツーリズム協会との共催で、仙台にてセミナー及び懇親会を開催し、参加者数は 77 名であった。

日時:2019 年 10 月 7 日 14:30~18:30

会場:ホテルメトロポリタン仙台

テーマ:「観光から学ぶSCのインバウンド戦略」

第 1 部<講演会> 「東北におけるインバウンドの現状と課題」

講師:渡辺 厚 氏 (日本政府観光局 地域連携部長)

第 2 部<パネルディスカッション> 「観光から学ぶSCのインバウンド戦略」

コーディネーター:(一社)日本ショッピングセンター協会 国際委員会委員長

住商アーバン開発(株) 代表取締役社長 高野 稔彦 氏

パネリスト:(一社)ジャパンショッピングツーリズム協会 代表理事 新津 研一 氏

地球の歩き方総合研究所 事務局長 弓削 貴久 氏

(株)インアウトバウンド仙台・松島 代表取締役

(一社)東北インアウトバウンド連合 理事長 西谷 雷佐 氏

(役職名はセミナー開催時のもの)

② 「インバウンド特設サイト」での情報発信

SCのインバウンド対応を進めて来館者増につなげていただくことを目的に、協会ホームページの「インバウンド特設サイト」を通じて、インバウンドに関する統計・データ、取り組み事例集、受入環境整備、ガイドラインなどの情報提供を行った。10 月の「SCインバウンド対策セミナー」の内容も掲載。

(2) 国際交流

① APRC(アジア太平洋調査委員会)会議参加

APRC(Asia-Pacific Research Council)は ICSC が主催するアジア太平洋地域の調査委員会である。四半期毎の電話会議のほか、年に1回 RECon アジア太平洋の開催に合わせて、メンバーが集まり会議を開催している。今年は、シンガポールで開催され、協会からは事務局員が出席し情報交換ならびに参加者との交流をおこなった。

・開催日:10 月 21 日 14:00~17:00

・開催国:シンガポール

・参加者:5 名 ICSC(1 名)、シンガポール(1 名)、マレーシア(1 名)、中国(1 名)、日本(1 名/SC 協会)

<議題>

- i ICSC 調査報告
- ii 今後の ICSC の調査について

・その他 APRC 会議と同時に開催された RECon アジア太平洋において、“Asia Pacific Shopping Center Awards”が発表された。

※215SC エントリーのうち、145SC がファイナリストに選出。日本からは「イオンモール センソック シティ」(2018 年 5 月開業。イオンモールのカンボジア 2 号店)が新規開発部門のファイナリストに残った。

② RECon アジア太平洋 2019 への協力と参加

国際ショッピングセンター協会(ICSC)主催の SC 業界関係者向けコンベンションである、「RECon Asia-Pacific 2019」(2019 年 10 月 21 日～23 日 於/シンガポール)の後援団体として、当協会会員に向けてコンベンションへの参加勧奨等の協力をおこなった。

その他、ICSC からの JR 東日本東南アジア事業開発・大見山代表への RECon Asia-Pacific における講演依頼に協力した。

③ 韓国開発研究院(Korea Development Institute)との交流

大韓貿易投資振興公社(KOTRA)経由で、韓国産業資源部(日本の経済産業省)傘下のシンクタンクである韓国開発研究院(KDI)へ日本のSC業界に関する説明依頼があり対応した。

- ・日時:2019 年 5 月 29 日
- ・目的:日本の SC 業界に関する情報収集
- ・内容:これまでの SC の開発の推移、SC 業界の現状と展望
- ・参加者:韓国開発研究院(KDI)・・・2 名、大韓貿易投資振興公社(KOTRA)・・・2 名(通訳)

④ 建築産業会商業文化観光産業委員会との交流

「建築産業会商業文化観光産業委員会」(中国・北京)へ日本の SC 業界に関する説明をおこなった。

- ・日時:2019 年 6 月 27 日
- ・目的:日本の SC 業界に関する情報収集
- ・内容:これまでの SC の開発の推移、SC 業界の現状
- ・参加者:建築産業会商業文化観光産業委員会・・・14名

(3) その他

「ジャパンショッピングフェスティバル東北」への後援

(一社)ジャパンショッピングツーリズム協会より当協会に「ジャパンショッピングフェスティバル東北」(開催期間:2019 年 12 月 1 日～2020 年 2 月 29 日)への協力依頼があり、国際委員会が窓口となり、その目的が SC のインバウンド推進に資することから、後援を行った。

後援にあたり、会場エリアとなる東北支部を中心に、10 月 7 日の「SC インバウンド対策セミナー」の中で参加企業各社にイベントへの参加を呼びかけた。

4. 人材育成委員会

1. 2019 年度 活動総括

2019 年度人材育成委員会では、変化する社会経済情勢とマーケットニーズを的確に把握しつつ、SC 経営の現状における課題抽出と解決策を提供する場として、セミナー、通信教育などのツールを使い、会員ニーズに合った人材育成プログラムを提供することに努めてきた。また、2018 年度より、地方会員へのサービス向上の一環として、ICT を活用した WEB セミナーをスタートし、2019 年度は開催本数を増やす等、一層の拡充を図ってきた。

(1) セミナー

SC に関する基本的なテーマから、人材確保や新しい時代への対応など、SC 業界の重点テーマを継続的に取り上げ、2020 年 3 月までに 45 本を開催した。延べ参加者数は 1,505 名と、目標 1,846 名に対して▲341 名であった。(3 月開催セミナーは、政府の新型コロナウイルス対応の一段の強化に伴い、6 本開催中止。これにより目標人数について▲195 名の影響があった。)

傾向としては、新入社員向けセミナー、基本管理・基本開発セミナーといったベーシックな内容に加えて、販促、契約関連のセミナーの受講者が多く好評であった。

新たな取組として、2018 年度より実施している WEB セミナーを前年度よりも拡大し、4 本実施したことに加えて、5 月に「ショップ営業力強化セミナー」を e ラーニングとして開催、12 月には収録した動画を再活用し、名古屋でのビデオセミナーを実施した。WEB セミナーの要素を活かしたこれらの取組と、リアルタイムでの質疑対応も可能にする等、新たな講義スタイルの検証を通して、地方会員の満足度向上に寄与した。

また、新企画として、「海外 SC および流通を学ぶ最新情報セミナー」を欧州編、米国編と 2 本開催し、幅広い視野を得る教育機会の提供に努めた(アジア編については 3 月開催予定であったが中止)。

(2) 海外研修

「米国東海岸」(7 月)「ヨーロッパ」(11 月)「米国西海岸」(2 月)の 3 本を計画し催行した。

今期は、全ツアーに商業施設視察だけでなく、美術館や博物館、歴史的建造物も視察する時間も多くなるなど各自目的別の視察時間も設け、参加者には好評をいただいた。コーディネーターの各参加者のニーズに合わせて柔軟なコーディネートも好評をいただいた。

また、従来より行われているツアー前と後に行なう勉強会や懇親会も好評で、特に参加者同士のネットワークが構築されることが喜ばれているので継続して実施していきたい。

ただ、全 3 本とも目標参加者数には届かず、年間の目標参加者数には 19 名少ない 66 名となった。特に米国西海岸ツアーは目標人数に 10 名少ない 15 名となり、次年度の海外研修については、企画の見直しが必要である。

(3) SC アカデミー

第 13 期は受講生 46 名。「合宿研修」、「SC 総論Ⅰ」、「SC 総論Ⅱ」、「SC 経営実践論」、「特別演習」全 5 コースを実施した。各コースのフォローアップや卒論指導を目的にゼミも例年通り実施した。

「SC 総論Ⅰ」では、前期の講師を 5 名から 3 名にし、講義時間も 1 単元 60 分を 120 分に変更し、併せてグループ討議もこれまでの 60 分から 1 単元(120 分)にし、全 6 単元を構成した。「SC 総論Ⅱ」、「SC 経営実践論」では、一部、講師の入れ替えを行った。卒業論文の最終審査は 3 月 23 日に実施した。

(4) SC 経営士試験

第 28 期 SC 経営士試験を実施し、受験者数は前期よりも 43 名多い 227 名が受験、最終合格者数は前期よりも 3 名少ない 55 名となった。また、有力ディベロッパーが試験への取り組みを強化したことと会員企業トップに受験者募集パンフレットの配布をするなどをした結果、過去 2 番目に多い 255 名の受験申込みをいただいた。

一方で、二次試験では前期よりも 2 名多い 13 名が不合格と過去 5 回の試験で最多数となり、第 26 期試験より増加傾向となっている。

【参考】事業実施概況

(1) セミナー

年度	開催数	延べ参加者数(a)	予定人数(b)	比較増減 (a)－(b)
2019年度	45本	1,505名	1,846名	-341
2018年度	47本	1,843名	1,908名	-65

セミナー名	開催期日	開催地	階層	参加者数(a)	予定参加者数(b)	比較増減 (a)－(b)
SCテナントミックス・リーシングセミナー	4月18日	東京	C	19	40	-21
SC基本管理運営セミナー	4月25-26日	東京	A	56	45	11
4月		2本		75	85	-10
テナント向け法律セミナー	5月8日	東京	A	16	30	-14
SC出店契約書作成セミナー	5月22日	東京	A	41	40	1
最先端テクノロジーから考えるSCの未来セミナー	5月23日	東京	C	32	30	2
ショップ営業力強化セミナー(eラーニング)	5月27-31日	WEB	C	9	0	9
SC販促イベントセミナー	5月29日	東京	C	62	50	12
5月		5本		160	150	10
テナント営業管理担当者ステップアップを目指す第1回	6月13日	東京	B	41	45	-4
テナント営業管理担当者ステップアップを目指す第2回	6月14日	東京	B	41	45	-4
新入社員向けフレッシュス'セミナー	6月20日	東京・WEB	A	92	60	32
SC事業戦略セミナー	6月26日	東京	D	34	41	-7
6月		4本		208	191	17
リーシング担当者ステップアップを目指す第1回	7月11日	東京	B	49	50	-1
リーシング担当者ステップアップを目指す第2回	7月12日	東京	B	47	50	-3
SC法律セミナー	7月18日	東京	C	47	45	2
ECとリアル融合から考えるSCの未来セミナー	7月23日	東京・大阪	D	19	45	-26
人手不足問題対策セミナー①	7月25日	東京	C	24	30	-6
SC緑陰トップフォーラム	7月30-31日	北海道	E	81	60	21
7月		6本		267	280	-13
SC新規開発・リニューアルに向けたマーケット分析手法	8月6日	東京	C	27	35	-8
5回シリーズ第1回「SC管理運営」	8月21日	東京	A	39	50	-11
海外SC及び流通を学ぶ最新情報セミナー～欧州編～	8月27日	東京	C	14	0	14
5回シリーズ第2回「SCテナント営業管理」	8月28日	東京	A	45	45	0
SC施設管理セミナー	8月30日	東京	C	44	45	-1
8月		5本		169	175	-6
5回シリーズ第3回「SC販売促進」	9月4日	東京	A	33	45	-12
5回シリーズ第4回「SCテナントミックス、リーシング、出店契約」	9月11日	東京	A	31	45	-14
新視点のマーケティング戦略セミナー	9月13日	東京	D	34	30	4
5回シリーズ第5回「SCテナント更新、リニューアル」	9月18日	東京	A	26	40	-14
キャッシュレスセミナー	9月24日	東京	C	36	46	-10
顧客情報活用セミナー(データリブ型SCを目指す)	9月26日	東京	C	14	30	-16
9月		6本		174	236	-62
SC契約セミナー	10月10日	大阪	C	21	35	-14
SCクレーム対策セミナー	10月23日	東京	C	23	30	-7
10月		2本		44	65	-21
SC秋晴れトップフォーラム	11月6日	東京	E	50	35	15
ショップ営業力強化セミナー	11月20日	東京・WEB	C	14	35	-21
SC基本開発セミナー	11月27-28日	東京	A	50	30	20
11月		3本		114	100	14
SCにおけるテナント従業員教育セミナー	12月3日	東京	E	23	40	-17
SC視察・交流セミナー(コト'室町テラス)	12月4日	東京	C	14	35	-21
海外SC及び流通を学ぶ最新情報セミナー～米国編～	12月9日	東京	A	44	0	44
まちづくり・地域活性化セミナー	12月10日	東京	E	35	35	0
SCリニューアルセミナー	12月11日	東京・大阪	C	24	45	-21
【ビデオセミナー】新視点のマーケティング戦略セミナー	12月12日	名古屋	A	5	0	5
12月		6本		145	155	-10

セミナー名	開催期日	開催地	階層	参加者数(a)	予定参加者数(b)	比較増減(a)-(b)
テナント向けクレームセミナー	2月5日	東京	E	16	24	-8
SC視察・交流セミナー(渋谷ハルコ)	2月7日	東京	C	31	40	-9
プロモーション担当者ステップアップを目指す第1回	2月12日	東京	A	26	40	-14
プロモーション担当者ステップアップを目指す第2回	2月13日	東京	E	26	40	-14
SC基本管理運営セミナー	2月20-21日	大阪	C	18	40	-22
危機管理対策セミナー	2月27日	東京	A	32	30	2
2月	6本			149	214	-65
新時代対応型SC戦略セミナー	3月3日	東京	C	0	30	-30
人手不足問題対策セミナー(2)	3月6日	東京	C	0	30	-30
危機管理対策セミナー(食の安全管理)	3月11日	東京	C	0	45	-45
飲食・食品ゾーン活性化セミナー	3月12日	東京	C	0	50	-50
海外SC及び流通を学ぶ最新情報セミナー～アジア編～	3月17日	東京	C	0	0	0
SC契約実務対策セミナー	3月26日	東京	C	0	40	-40
3月	0本			0	195	-195
合計	45本			1,505	1,846	-341

※3月開催セミナーは、政府の新型コロナウイルス対応の一段の強化に伴い、6本開催中止。

(2) 海外研修

年度	開催数	参加者数		
		実績(a)	目標(b)	(a) - (b)
2019年度	3回	66	85	-19
2018年度	3回	74	80	-6

ツアー名	開催期日	訪問都市	参加者数		
			実績(a)	目標(b)	(a)-(b)
第141回	7/12～19(8日間)	米国東海岸 (ニューヨーク、オーランド)	25	30	-5
第142回	11/24～12/1(8日間)	ヨーロッパ (パリ、ロンドン)	26	30	-4
第143回	2/13～20(8日間)	米国西海岸 (ロサンゼルス、サンフランシスコ)	15	25	-10

(3) 通信教育

講座名	2019年度			2018年度	
	実績(a)	目標(b)	比較増減(a)-(b)	実績(c)	前年度差(a)-(c)
SC開発講座	125	150	-25	138	-13
SC管理運営講座	477	515	-38	449	28
合計	602	665	-63	587	15

(4) テナントスタッフハンドブック

販売数 299冊(予算240冊 2018年度実績 236冊)

※東北復興支援の一環として、(一社)「鮎川まちづくり協会」へ15冊寄贈

(5)SCマネジメントブック

販売数 180冊(予算179冊 2018年度実績 184冊)

(6)サポート関連

実施数 28件 (予算71件 2018年度実績 70件)

(7)SCアカデミー

第 13 期受講生 46 名。

(8)SC 経営士更新講習

SC 経営士登録更新者は 150 名。

(9)冠講座

前期:岩手県立大学 履修学生数20名
後期:下関市立大学 履修学生数320名

5. 情報委員会

1. 2019年度 活動総括

月刊 SC JAPAN TODAY は、モバイル端末で気軽に読める電子ブック化の要望に応え、協会 WEB サイトの会員専用ページにて会員に限り、月刊誌デジタル版最新号を無料閲覧できるサービスを 2019 年 7 月 29 日より開始した。各号はSDGs や自然災害、外国人材など時流を捉えた特集テーマを設定し、編集委員ならびに各委員会の協力のもと、実務に直結する事例を中心に紹介した。

広報活動では、協会 WEB サイトやメルマガ、プレスリリースを通じて適宜情報発信した。また定例記者懇談会を年 2 回(7 月・12 月)開催して SC 動向や協会活動状況について報告した。

2. 事業報告

(1) 月刊誌

① 特集テーマ

4 月号 『価格競争に陥らない消費増税対策』

5 月号 『外国人材と働く ～採用そして共生へ～』

6 月号 『にぎわいを創るオープンスペース』

7・8 月合併号『特集 1 決定！ 第 8 回日本 SC 大賞・第 6 回地域貢献大賞

特集 2 アクション！ 2020 と SC』

9 月号 『自然災害に SC はどう向き合うか』

10 月号 『SC 運営を支援するテクノロジー』

11 月号 『SC と SDGs 持続可能な社会を共創するには』

12 月号 『令和時代の SC フード戦略』

1・2 月合併号『街とともに歩む SC50 年』

3 月号 『第 44 回日本ショッピングセンター全国大会』

② デジタル版会員限定閲覧サービス

2019 年 7 月 29 日より、月刊「SC JAPAN TODAY」デジタル版の会員限定閲覧サービスを開始。

協会サイトの会員ページ(既存)にて月刊誌デジタル版を会員に限り無料閲覧ができる。閲覧期間は最新号発行日から原則 1 ヶ月間。

③ 協会郵送物封入広告

2019 年 8 月末日(月刊誌 9 月号発送時)より、会員向けの広告サービスとして協会郵送物封入広告を開始。協会から会員窓口へ定期的に送付している協会郵送物に、会員企業のチラシを同封するサービス(会員限定・有料)。

(2) 広報活動

① 定例記者懇談会

・第 1 回(夏) 2019 年 7 月 26 日(金)

場所:ホテルメトロポリタンエドモント

出席者 マスコミ 45 名(30 社) 理事 14 名

発表内容 2019 年(上期)SC 動向、軽減税率導入への対応 ほか

・第 2 回(冬) 2019 年 12 月 24 日(火)

場所:ホテルメトロポリタンエドモント

出席者 マスコミ 53 名(37 社) 理事 13 名

発表内容 清野会長 2020 年頭所感、2019 年 SC 動向、ES 向上・人材確保に関する定量調査 ほか

② ニュースリリース配信

・販売統計(4 月～2020 年 3 月) 12 回

- ・SC 大賞/地域貢献大賞 1 回
- ・定期総会 2 回
- ・定例記者懇談会・交流会 2 回
- ・接客ロールプレイングコンテスト 1 回
- ・日本 SC 全国大会 1 回 計 19 回
- ＊記者クラブへの投げ込み 各 165 件(5 月、11 月)
- (東商記者クラブ 30 件、国土交通省記者会 80 件、国土交通省交通運輸記者会 15 件、
国土交通省建設専門誌記者会 20 件、東京都庁記者クラブ 20 件)

③メルマガ配信

毎月月末に配信。主な内容は協会活動、セミナー募集等。配信数は約 5300。

＊2019 年 4 月～2020 年 3 月

その他、臨時号として月中(15 日)に 2019 年 10 月～2020 年 1 月(SC ビジネスフェア)、2019 年 10 月、2020 年 2 月(支部開催イベント)を配信した。

④取材対応

- ・韓国開発研究院(5月29日):日本SCの現況と展望、流通特性
- ・日経グローカル(6月7日):地域におけるSCの役割
- ・織研新聞社(12月3日):SC業界の展望について

6. 調査研究委員会

1. 2019 年度 活動総括

2019 年度は、SC 業界の全体像をよりいっそう適切に把握し情報発信するために、各種調査の精度向上を図った。また、調査結果の周知の拡大にも取り組んだ。

SC 数を正確にとらえるために、新規オープンとリニューアルの判断の基準について検討し整理した。毎月実施している SC 販売統計調査については、サンプル数の増加による精度向上に努めるとともに、2019 年 10 月 1 日からの消費税率引上げおよび軽減税率制度導入への対応として、これまで「税込」で集計していたのを「税抜」に変更して調査を実施した。

引き続き、SC オープン情報や計画情報の提供、SC 白書の発刊、既存調査(SC販売統計調査、賃料・共益費実態調査)、2015 年度から開始した人材確保定量調査の継続調査も実施した。

2. 事業報告

(1) 各種判断基準の整理

新規オープンとリニューアル、閉店等の判断基準について改めて整理し、明確にした。

その結果、建替を伴う SC の開業は原則として新規オープンとして扱い、建替を伴わない場合でも「テナント構成の大幅な変更」、「店名の変更」があり、旧 SC と比較して大幅な変更が認められる場合には、原則として新規オープンとして扱うこととなった。

(2) 調査結果の周知の拡大

SC データならびに各種調査統計をより多くの方々に発信していくため、SC 販売統計調査結果概要の月刊誌への掲載を 2020 年 3 月号よりスタートした。

また、多くの媒体に取り上げていただくことを目指して、毎月の販売統計発表時に翌月の発表日を HP に掲載することとした。

夏(7 月)と冬(12 月)の定例記者懇談会では、山田委員長から 2019 年業界動向や人材確保調査等について報告をおこなった。

(3) 各種定例調査の実施

① SC 販売統計調査の実施

販売統計調査は、月次、四半期、上半期、下半期、年間調査を実施するとともに、年末年始の販売動向調査を着実に実施した。

なお、2019 年 10 月 1 日からの消費税率引上げおよび軽減税率制度導入への対応として、2019 年 1 月度分より、これまで「税込」で集計していたのを「税抜」に変更して調査を実施した。調査の精度向上を図り、サンプル数の増加にも取り組んだ。

② SC 賃料・共益費実態調査 2019 の発表

月坪賃料、共益費、総合賃料の調査を実施し、12 月 27 日に協会 HP(会員ページ)にて発表した。

③ SC 白書 2019 の発刊

「SC 白書 2019 ～新時代の幕開けと SC～」を第 47 回定期総会時(5 月 21 日)に発刊し、全会員に配布した。

④ SC オープン、計画情報および SC 基礎データ一覧の更新

協会 HP(会員のページ)に、SC オープンと計画情報(月次)、SC 基礎データは年 1 回(6 月)更新を行った。また、一般ページにおいて大店立地法新設届出情報(月次)を掲載した。その他、年 2 回(7 月、12 月)の記者懇談会では、オープン SC の概要を発表した。

⑤人材確保に関する定量調査の実施

2015 年度から開始した「人材確保に関する定量調査(ディベロッパー、テナント)」の継続調査を実施し、概要を12月24日の定例記者懇談会で報告し、全表を協会HP(会員ページ)で2月13日に発表した。調査項目については、人材確保対策特別委員会からの要望を取り入れ、見直しを行った。

7. 全国大会実行委員会

1. 2019 年度 活動総括

- 1月22日(水)～24日(金)、パシフィコ横浜にて開催した第44回日本ショッピングセンター全国大会 SC ビジネスフェア 2020 は、「出会い、発見、チャンス、そして未来へ」をテーマに掲げた。
- 展示ホールで開催されたSCビジネスフェア(商談展示会)は、**244社・570小間**(前回253社・564小間)の出展規模であった。このうち、発見マルシェは25社・40小間(前回28社・37小間)、SC業界研究イベントは30社・29小間(前回32社・32小間)であった。会場面積は前回と同じく13,300㎡。

※()は前回実績

ゾーン	出展者数	小間数
ディベロッパー	50(55)	195(205)
テナント(発見マルシェ 25 社・40 小間含む)	83(88)	158(149)
サポート(SC Tech Forum 16 社・40 小間含む)	81(78)	188(178)
学生のためのSC業界研究イベント	30(32)	29(32)
合 計	244(253)	570(564)

- 来場者数は延べ**53,400人**(前回延べ53,000人)。当日入場登録者数(招待者含む)は12,874人(前回12,576人)だった。3日目の商業ディベロッパー業界研究フェアの学生来場者は400人(前回417人)。
- 2回目となる**特別協賛**は、前回の2社(楽天、東日本旅客鉄道／敬称略)から、おかげさまで**5社(東日本旅客鉄道、東急グループ、ルミネ、KDDI、楽天ペイメント／敬称略)**に増えた。各社の企業ロゴを場内看板・展示ホール入口サイン、来場者募集リーフレットや公式Webサイト、公式ガイドブック等に掲載し、SCビジネスフェア2020を通じて、企業PRをしていただいた。

2. 事業報告

(1)発見マルシェについて

- 1月22日・23日に開催した。全国から魅力的な商材が集まる「発見マルシェ」は3回目となる。
- 今回は話題のキッチンカーなど個性的な「**食関連**」の出展が増えた。注目すべきポップアップストアの出店・運営支援など、いまSCが求める事業者**25社・40小間**が勢揃いした。

(2)SC Tech Forum(新企画)について

- 当協会の次世代SCテクノロジー研究会の協力を得て設置した新たな主催者企画ゾーン。ディベロッパーやテナントの実務者の声を受けて、『デジタルマーケティング』、『省力化・省人化』、『キャッシュレス決済』、『インバウンド対応』の4つをキーワードに企画した。会期中は大手企業やスタートアップ企業がテクノロジーで共演。出展者は**16社・40小間**で、SCにおける最先端テクノロジー情報を発信していただいた。
- 主催者ブースとして、レジを通さずに**キャッシュレス決済**ができる**ウォークスルー型の体験店舗**を設置(協力／(株)JR東日本リテールネット(商品提供)、クラスメソッド(株)(システム)、ジーク(株)(施工)(敬称略))した。当日の利用者は3日間で899人であった。

(3) シンポジウム・セミナーについて

- 有料セミナーでは多くの方々に参加していただけるよう、引き続き申込形態をこれまでの「1日単位」と「単元（講座）ごと」の2種類で、参加料を設定した。その結果、**有料セミナー・懇親パーティーの延べ参加人数は1,928人**（前回：5講演＋懇親パーティー 1,911人／前回差：＋17人）となった。
- 日経イベント・プロ（敬称略／会員企業）と連携し、有料セミナー講師案を選定。その際、オリパライヤーの象徴としての**隈氏**、渋谷の再開発で注目される**東急：野本氏**、ECプレイヤーとして圧倒的パワーを誇る**アマゾンジャパンのジャスパー チャン氏**など、今日的関心が高い講演プログラムとした。
- パネルディスカッションでは、前回に引き続き「ES」をテーマにした内容とし、今回はディベロッパー企業とテナント企業によるクロストークとした。
- 無料セミナー**は、SC Tech Forumのセミナーが加わったこともあり講座数が大幅に増え、全42講座（主催者及び後援企画9講座＋出展者プレゼンテーション33講座）となった。出展者プレゼンテーションの講師による集客も一層活発となり、**参加者が3,926人**（前回：29講座・3,159人／前回差：＋767人）と大幅に増えた。
- 出展者プレゼンテーション**は、前回に引き続き、「テーマに関するお願い」として、SC業界における喫緊の課題、SCを取り巻く環境変化等、聴講者の主となる**SC関係者の興味関心が高いテーマを設定**いただくよう依頼した。（例）ES（人手不足対策・働き方改革等を含む）／SDGs／スポーツ（オリパラも含む）／eスポーツ／EC／オムニチャネル／IT／Ai・ロボティクス等。

(4) 学生のためのSC業界研究イベント／商業ディベロッパー業界研究フェアについて

- イベントの打ち出し方を、学生のためのSC業界研究イベント「商業ディベロッパー業界研究フェア」として開催した。**パネルディスカッションや企業大喜利（新企画）**など各種コンテンツを通じて、学生がいま知りたいSC業界の最新情報や商業ディベロッパー企業社員の生の声を伝えた。
- 参加企業数は**30社・29小間**と、前回（32社・32小間）をやや下回ったが、学生にイベント趣旨が伝わりやすくなったと思われ、**来場学生数は400人**と、前回学生数（417人）をほぼ維持することができた。

8. 接客ロールプレイングコンテスト実行委員会

1. 2019 年度 活動総括

(1) ロールプレイングコンテスト

2019 年 9 月 3 日の関東・甲信越大会を皮切りに、全国 7 支部 8 地区において開催された支部大会には、531 のショッピングセンター(前回:522)から 1,107 名の競技者(前回:1,075 名)が参加。28 名の支部代表者が、1 月 24 日(金)開催の全国大会に集結した。

全国大会大賞「SC 接客日本一」には「アトレ恵比寿」ニールズヤードレメディーズの江口千賀子さんが選ばれた。江口さんは、「もう一度この人に接客してほしい」と思わせるような人間力が審査員に評価され、大賞「SC 接客日本一」、経済産業大臣賞に選出された。

(2) SC 接客マイスター検定制度

SC 接客マイスター試験に、ロールプレイングコンテスト支部大会申込者 1,107 名中、374 名の申込があった。実技試験の結果、364 名が合格し、実技試験合格者を対象にした WEB 筆記試験後の最終合格は、1 級 27 名、2 級 105 名、3 級 138 名の合計 270 名となった(再受験合格者 2 名を含む。)

2. 事業報告

(1) ロールプレイングコンテスト

①支部大会

地区	開催日程	会場
北海道	10 月 25 日(金)	サンピアザ劇場
東北	10 月 30 日(水)・31 日(木)	ホテルメトロポリタン仙台
関東・甲信越	9 月 3 日(火)～6 日(金) 9 月 9 日(月)・10 日(火)	IMA ホール(光が丘 IMA)
東京	10 月 7 日(月)～11 日(金)	ムーブホール(ムーブ町屋)
中部	11 月 13 日(水)～15 日(金)	ウインクあいち
近畿	10 月 15 日(火)～18 日(金)	ホテル京阪京橋
中国・四国	11 月 19 日(火)・20 日(水)	さん太ホール(山陽新聞本社ビル)
九州・沖縄	10 月 2 日(水)・3 日(水)	西鉄ホール(ソラリアステージ)

②全国大会受賞者一覧

(敬称略)

賞	氏名	SC 名	店名	支部
大賞・経済産業大臣賞	江口 千賀子	アトレ恵比寿	ニールズヤードレメディーズ	東京
食品・飲食・サービス部門	優勝 佐藤 寛子	ペリエ海浜幕張	ユーハイム	関東・甲信越
	準優勝 上原 夕佳里	イーアスつくば	ルピシア	関東・甲信越

ファッション・ 物販部門	優勝	阿部 香南子	イオンモール高崎	アモスタイル バイト リンプ	関東・ 甲信越
	準優勝	岩本 紗季	阪急西宮ガーデンズ	キャサリンロス	近畿
審査員長賞		藤井 謙士郎	土岐プレミアム・アウトレ ット	タケオキクチ	中部

※上記受賞者以外のすべての全国大会出場者は、「優秀賞」受賞。

③協賛金 135 口 6,750 千円(予算:130 口 6,500 千円)

(2) SC 接客マイスター検定制度

SC 接客マイスター2019 試験結果(人数)

2019年度(ロールプレイングコンテスト申込者1,107名) (人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
受験申込者	39	122	203	10	374



筆記試験受験者	29	123	198		350
---------	----	-----	-----	--	-----



最終合格者①	27	105	138		270
--------	----	-----	-----	--	-----

(参考)

【2015年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,013名) (人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2015年度合格者②	73	75	135		283

【2016年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,012名) (人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2016年度合格者③	44	50	208		302

【2017年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,056名) (人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2017年度合格者④	35	24	217		276

【2018年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,075名) (人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2018年度合格者⑤	36	40	209		285

【2015～2019年度】 (人)

2015～19年度合格者①+②+③+④+⑤	215	294	907		1,416
-----------------------	-----	-----	-----	--	-------

※2014年度以前の1級取得者(全国大会出場者)は60名。

総計1,476名

9. SC 経営士会

1. 2019 年度 活動総括

2019年度は、幹事会を3回(第4回幹事会は新型コロナウイルスの影響で中止)、会長・副会長会議を4回開催し、活動内容等について審議を行った。これを受けて、ブロック活動、例会(夏、秋)、年次ゼネラルミーティング(1月)を開催、SCビジネスフェア2020では業務・広報グループが中心となって、協会ブースのSC経営士会コーナーの企画・運営を行った。

また業務・広報グループでは「SC経営士会ニュース」を、2019年4月に配信した第7号から『SC経営士会【THE CIRCLE】』に名称変更するとともに、活動報告に加えてブロック長紹介など内容のさらなる充実を図った。引き続き、人材育成委員会からの依頼を受けて、SC経営士更新講習の企画や冠講座の講師を提案した。

研鑽・研究グループでは、「未来のSCのために今取り組むべきこと」をテーマにしたSC経営士研究論文を募集し、最優秀賞1点、優秀賞2点を選出し、1月の年次ゼネラルミーティングで表彰した。

ブロック活動は、北海道から九州・沖縄まで7ブロックがSC経営士相互の交流を促進する行事を実施したほか、協会支部と連携した企画に取り組んだところもある(参照／2019年度SC経営士会活動一覧)。

2. 事業報告

(1) 「例会」について

①「夏の例会」

- ・日時:8月29日(木) ・場所:協会会議室
- ・プログラム: <第1部> 講演・意見交換会
『買う・売るを超えたSCのこれからの役割』
(講師)齋藤精一氏 (株)ライゾマティクス 代表
(ファシリテーター)磯田幸実氏(第23期 東日本旅客鉄道(株)総合企画本部)
『講師と参加者による意見交換』
- <第2部> 参加者交流会
- ・参加者:セミナー 65名、交流会 48名

②「秋の例会」

- ・日時:11月26日(火) ・場所:渋谷スクランブルスクエア
- ・プログラム:【第1部】 話題の渋谷駅周辺再開発研究
「渋谷再開発及び渋谷スクランブルスクエアの概要について」
講演者:渋谷スクランブルスクエア(株) 常務取締役 渋谷宗彦氏
「渋谷スクランブルスクエア」等現地自由視察
- 【第2部】 参加者交流会
- ・第1部 69人 第2部 50人

③「春の例会」 ※下記プログラムを予定していたが延期させていただいた。

- ・日時:2020年3月4日(水)～5日(木) ・場所: 沖縄
- ・プログラム:視察 サンエー浦添西海岸PARCO CITY、イオンモール沖縄ライカム / 交流会

(2) 「年次ゼネラルミーティング」について

- ・日時:2020年1月22日(水) 11:00～12:30 ・場所:パシフィコ横浜 会議センター5階
- ・プログラム:SC経営士会会長挨拶、新SC経営士紹介(インタビュー)、副会長・ブロック長紹介、2019年度活動報告、2020年度活動計画、新SC経営士対抗クイズ～SCカルトQ、参加者交流会
- ・参加者:139人

(3) SCビジネスフェア2020

- ・セミナー:「SCの未来を語ろう」 聴講者147人

・協会ブース内SC経営士コーナー:「SCの超・リアル」レポート…6講座実施。ミニセミナーながら『単館のリアル』(アトレ佐藤氏×江釣子パル平藤氏)は多くの聴講者を集めた。

(4) SC経営士登録更新講習について

人材育成委員会からの依頼を受けて、SC経営士登録更新講習を企画し、2019年度SC経営士更新講習を大阪(9/5、受講者26名)、東京(10/24、11/12、63名)にて行った。

(5) 冠講座の企画について

冠講座についても人材育成委員会から依頼を受けて、2020年度に実施予定の流通科学大学と東京電機大学でのカリキュラム案をまとめた。具体的には、協会事務局と連携して、カリキュラムのそれぞれの単元について、支部管内の企業、SC経営士等の講師案を作成した。

(6) SC経営士会【THE CIRCLE】の配信について

業務・広報グループでは「SC経営士会ニュース」を、2019年4月に配信した第7号から『SC経営士会【THE CIRCLE】』に名称変更するとともに、活動報告に加えてブロック長紹介など内容のさらなる充実を図った。第7号(4月23日発行)から第12号(3月4日発行)まで6号を配信した。

(7) SC経営士研究論文について

SCの第一線の現場で活躍する主に30～40歳代のSC経営士が、実務者の目線で未来のSCのために今取り組むべきことを提言した8篇の論文の中から、当協会の役員や学識経験者ら7名が審査を行い、最優秀賞を含む3編を選出した。結果は次のとおり。

<最優秀賞>

論文名:～市場化するSC～同質化と多様化の狭間で生き残る新時代の道標

執筆者:磯田幸実氏(第23期SC経営士) 東日本旅客鉄道(株) 事業創造本部 主席

<優秀賞>

論文名:「as a Service」時代の交通結節型SC:MaaS対応の処方箋

執筆者:池澤威郎氏(第19期SC経営士) 福山市立大学 都市経営学部 准教授

論文名:クラウドファンディングの活用により「地域のつながり」となるSCを目指す

執筆者:梶川直樹氏(第23期SC経営士) (株)東急モールズデベロップメント 二子玉川ライズ・ショッピングセンター 営業企画 MD担当 アシスタントマネジャー

2019年度 SC経営士会 活動一覽

■ 実施済み □ 予定

2020年3月24日現在

		2019年度												2020年度		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
SC協会行事																
幹事会(仮)																
例会(仮)																
研修・研究グループ																
業務広報グループ																
北海道ブロック																
東北ブロック																
関東・甲信越ブロック																
中部ブロック																
近畿ブロック																
中国・四国ブロック																
九州・沖縄ブロック																